

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区岩本町 2-10-12
園名	岩本町ちとせ保育園 3歳児

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- 様々な音を聞いて想像してみよう
- 楽器を使って演奏を楽しもう
- 楽器を使って表現してみよう

<テーマの設定理由>

楽器に興味を持つ子どもが多い為、様々な楽器を用意して、触れて音を出すこと、音を聴いてさらに探求できるように活動を設定した。
音を聴いて何の音か考え、音からイメージを膨らませる。また他児とコミュニケーションを取り言葉のやり取りや、協力して遊んだり楽しんだりすることを体験できるようにした。

2. 活動スケジュール

- 10月 初めての大きな楽器に触れてみよう
(大太鼓、小太鼓、和太鼓、木琴、鉄琴など)
- 11月 いろいろな楽器に触れて音を出してみる
- 11月 音当てゲームをしてみよう
- 12月 いろいろな楽器の音を聴いてみよう
- 12月 楽器を使って演奏をしてみよう
- 12月 友達と音を合わせて合奏を楽しもう
- 1月 音当てゲームをしよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・タンバリン・鈴・トライアングル・木琴・鉄琴・ハンドベル・ウッドブロック・大太鼓・小太鼓・和太鼓・ツリーチャイム・カホン・ハンドドラム

4. 探究活動の実践

〈活動の内容〉

■初めての大きな楽器に触れてみよう（大太鼓、小太鼓、和太鼓・木琴、鉄琴など）

自分の身体よりも大きな楽器に触れてみる。大太鼓、小太鼓、和太鼓を実際に触り、硬い部分と柔らかい部分に気付く。叩く所とそれ以外の所の素材の違いに注目していた。それぞれ音を出すための道具（バチ）が違うことにも気付き観察していた。

鉄琴、木琴は鍵盤部分を触り、触感を確かめていた。どちらの鍵盤がより硬いのか、触ったり、軽く叩いたりしながらみていた。

■いろいろな楽器に触れて音を出してみる ■いろいろな楽器の音を聴いてみよう

音が出ることがわかるとすぐに音を出してみる。音を確認するように繰り返し叩き、音を出すこと、音を聴くことを楽しんでいた。いろいろな楽器の音を知ってから、楽器に触れ演奏をする経験を増やした。楽器に慣れてくると叩く場所、強さなど意識するようになってきた。

■音当てゲームをしてみよう

複数の楽器を用意し、子ども達は目隠しをする。出題者が楽器をひとつ選び音を鳴らす。鳴らされた音から楽器の名称を当てる。回数を重ねるごとに難易度をつける為、楽器の種類を増やして行く。

■楽器を使ってリズムを表現してみよう

楽器に慣れてきて、曲のリズムを感じながら演奏する姿が出てきた。簡単な短いリズムの曲を聴きながら、リズムを取っていた。

■友達と音を合わせて合奏を楽しもう

音を区別できるようになり、リズムも自分で取れるになり、友だちと合奏を楽しむ。保育士のピアノや友達の楽器の音を聴いてリズムを取ったり、友達と目を合わせてタイミングを計る姿も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

■初めての大きな楽器に触れてみよう（大太鼓、小太鼓、和太鼓、木琴、鉄琴など）
初めての楽器に興味深々の子ども達だった。どんな音がするのか気になりバチを使って夢中で叩いたり、手で直接音を出す姿もあった。太鼓の音が響く様子を感じ取り、直接太鼓に耳を当てて「中で音がするよ」と子ども同士で話をしていた。
鉄琴では音の響きを楽しんでいた。一つの鍵盤を叩いて音を出した後、すぐに別の鍵盤を叩き、複数の音が重なる響きを楽しんでいた。音を出すうちに音階に気付き、自分達の知っている曲を演奏してみようと提案する児がいた。

■いろいろな楽器に触れて音を出してみる ■いろいろな楽器の音を聴いてみよう
ツリーチャイムやカホン、トライアングルなど珍しい楽器に興味を持つ。日常の中であまり聴くことのない音に興味を持ち、音を出しながら似ている生活音を探していた。保育士が「この音とこの音、どっちが高い？」と質問を投げかけると子ども達で意見を出し合いながら話し合っていた。

■音当てゲームをしてみよう
音当てゲームはいろいろな楽器に親しんでから行ってみた。出題する児は複数の楽器の中から好きなものを選ぶことを楽しんでいた。目隠しをしている児は音が聴こえてくると嬉しそうにしながら、自分の答えた楽器が正解すると出題児も回答児も全員で喜ぶ姿があった。
ハンドベルを使った音当てゲームでは、音階全ては難しかったが、「ミ」「ド」など回答する様子が見られた。楽器遊びを繰り返す中で、音階への理解が深まり、音当てゲームの正解率も上がっていった。
ハンドベルを自由に演奏できるよう準備しておく子ども達だけで「この音はソ」と話したり簡単な曲を演奏し合い、音楽に親しみながら自由に表現して遊んでいた。

■楽器を使ってリズムを表現してみよう
保育士や友達の姿を見てリズムを模倣する子どももいれば、聴こえてくる曲に合わせて自由にリズムを取る姿もあった。友達に「一緒にやろう」と声をかけリズムを揃える子どもも見られた。3文字の言葉に合わせて、「バナナ」と言いながらタンバリンを演奏したり、テンポに緩急をつけ、バリエーションを増やし、意欲的に遊びに参加して楽しんでいた。

■友達と音を合わせて合奏を楽しもう
周りの音を聴く、音を合わせようとする意識をするようになってきた。保育士のピアノの音を聴いて身体全体でリズムを感じ、演奏する児もいれば、自由に音を出すことを楽しむ児もいた。子どもがリズムを表現しやすいように記号を用いたり、色分けをして音符の長さを区別しやすいようにした。



5. 振り返り

子どもが楽しんで取り組めること、「やってみたい」と思うことに重点をおいて進めた。様々な楽器に触れその音に興味を持ったり、音の違いを感じたり、言葉や手拍子、足踏みをして身体全体でリズムを体感し楽しんでいた。友達の姿を気かけたり、周りの音を聴くようになり、楽器に触れる活動を通して子ども達が協力してひとつのものを作ることを楽しみ、自然と協調性を持つようになった。

ゲームやダンスを取り入れ、遊びの中でいろいろな楽器に触れ、たくさんの音を聴くことで音楽活動を楽しみ、意欲的に参加する様子が増えた。自分達が楽しんでいる姿を他クラスや保護者に見てもらうことで満足感や達成感、そして次への期待感にも結びついたと思う。